

【用語説明】

アルファベット順

| | |
|--|---|
| ACP (Advance Care Planning) | 終末期において起こりうる病状の変化に備えて、医療従事者や患者と家族とともに、患者の医療上の希望、生命維持治療に対する意向、医療に関する代理意思決定者の選定などを行うプロセスのこと。厚生労働省による愛称は「人生会議」 |
| ACS (Acute Coronary Syndrome) | 冠動脈の血管が狭くなったり、詰まったりすることにより、心筋組織に十分な血液が供給されなくなることで引き起こされる症候群のこと（急性冠症候群） |
| AST (Antimicrobial Stewardship Team) | 感染症の治療効果を高め、耐性菌の出現を抑えるために、抗菌薬の適正使用に向けて支援するチームのこと |
| BCP (Business Continuity Planning) | 企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと |
| CAPS (Child Abuse Prevention System) | 児童虐待に対応する院内の複数の部門が、各々の視点から、児童虐待かどうか、通告等をすべきかどうかなどについて判断し、病院として通告や警察への連絡などを行う組織のこと |
| CRC (Clinical Research Coordinator) | 医療機関において、治験責任医師・治験分担医師の指示のもと、治験の進行をサポートする職業のこと |
| CSセット (Care Support) | 入院生活に必要な衣類、タオルや紙おむつなどの日常生活用品をセット化したもの |
| DMAT (Disaster Medical Assistance Team) | 大規模災害や事故などの現場で急性期（概ね48時間以内）に活動できる機動性を持ったチームのこと。専門的な訓練を受けた医師、看護師、業務調整員（医師、看護師以外の医療職及び事務職員）などで構成される。 |
| e-Tax | 国税庁が運営する国税に係る申告・申請・納税に係るオンラインサービスのこと |
| HBOC (Hereditary Breast and | 遺伝性乳がん卵巣がん症候群のことで、遺伝子の生殖細胞系列の病的な変異が原因で乳がんや卵巣がんを高いリスクで発症する遺伝性腫瘍 |

| | |
|---|---|
| Ovarian Cancer) | の1つである。 |
| ICD (Infection Control Doctor) | 感染症、感染制御及び院内感染対策を専門に取り扱う医療従事者のこと |
| ICT (Infection Control Team) | 院内で起こる様々な感染症から患者、家族、職員の安全を守るために活動を行うチームのこと |
| ICT (地域連携ICT) (Information and Communication Technology: 情報通信技術) | 通信技術を活用したコミュニケーションを指し、情報処理だけでなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称のこと |
| IMPELLA | 経皮的に挿入するカテーテル式補助人工心臓のこと |
| IMRT (Intensity Modulated Radiation Therapy) | 専用のコンピュータを使い、照射野の形状を変化させたビームを複数用いて、腫瘍の形に適した放射線治療を行う新しい照射方法のこと。腫瘍に放射線を集中し、周囲の正常組織への照射を減らすことができるため、副作用を増加させることなく、より強い放射線を腫瘍に照射することが可能になる。 |
| ISO15189 | 臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項に関する国際規格のこと |
| IVR (Interventional Radiology) | エックス線透視や超音波像、CTなど画像診断装置を使用しながら体内に細い管(カテーテルや針)を入れて病気を治す治療法のこと |
| NMCS (Neonatal Mutual Cooperative System) | 大阪府下で高次医療を行う施設が協力し、新生児領域の専門的医療を24時間365日体制で提供している新生児診療相互援助システムのこと |
| OGCS (Obstetric&Gynecologic Cooperative System) | 産科救急・母体搬送を円滑に行うための連絡調整システム。搬送の必要性が出た場合、依頼施設はコーディネータに連絡し、このコーディネータが受入病院を探す仕組みとなっている。 |
| PCPS (Percutaneous Cardio Pulmonary Support) | 遠心ポンプと膜型人工肺を閉鎖式回路で構成する人工心肺装置により、大腿動静脈経路で心肺補助を行うこと(経皮的心肺補助法) |
| PCR 検査 (Polymerase Chain Reaction) | ウイルス遺伝子の特徴的な一部分を切り取り連鎖反応で増幅させる検査のこと |
| PDCA サイクル (Plan Do Check Action) | Plan (計画)、 Do (実行)、 Check (評価)、 Action (改善) の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善させること |

| | |
|--|--|
| PSC (Primary Stroke Center: 一次脳卒中センター) | 脳梗塞に対する血栓溶解療法 (rt-PA 静注療法) が 24 時間 365 日対応可能な施設のこと |
| SCU (Stroke Care Unit:脳卒中ケアユニット) | 脳卒中 (脳梗塞、脳出血、くも膜下出血) 急性期の患者を、専門医療スタッフがチームを組んで計画的に診療を行う治療室のこと |
| SU (Stroke Unit) | 多職種で構成する脳卒中専門チームが脳卒中急性期からリハビリテーションを含めた治療を一貫して行う病棟のこと |
| t-PA (tissue-Plasminogen Activator) | 血管を詰まらせている血栓 (血の固まり) を溶かし、血流を再開することで脳の働きを取り戻すようにする血栓溶解療法のこと |

あいうえお順

| | |
|-----------------|--|
| アクシデント | 医療事故のこと。医療に関わる場所で、医療の全過程において発生するすべての人身事故で、医療従事者の過誤、過失の有無を問わない。死亡、生命の危険、病状の悪化等の身体的被害及び苦痛、不安等の精神的被害が生じた場合、患者が廊下で転倒するなど、医療行為とは直接関係しない場合、患者だけでなく、注射針の誤刺のように、医療従事者に被害が生じた場合を含む。 |
| アドヒアランス | 患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること |
| アンギオ | カテーテルを使って血管内に造影剤を注入し、血流や腫瘍の分布、血管の狭窄や閉塞を検査及び治療する機器のこと |
| 遺伝カウンセラー | 遺伝医療を必要としている患者や家族に適切な遺伝情報や社会の支援体勢等を含む様々な情報提供を行い、心理的、社会的サポートを通して当事者の自律的な意思決定を支援する保健医療・専門職のこと |
| 医療連携登録医 | 患者の病状にあった継続性のある医療を切れ目なく行うため、医療連携している地域の医療機関の医師（かかりつけ医）のこと |
| インシデント | 医療事故に至る前に気付いたこと。患者に障害の発生しなかった事例のみならず障害の発生した事例、過失の見られるものや不可抗力、また、結果だけでなくプロセスの問題も含まれる。 |
| 院内助産 | 病院や診療所において、保健師助産師看護師法で定められている業務範囲に則って、妊婦健康診査、分娩介助並びに保健指導（健康相談・教育）を助産師が主体的に行う看護・助産提供体制としての「助産外来」や「院内助産」を持ち、助産師を活用する仕組みのこと |
| インフォームドコンセント | 治療や臨床試験・治験の内容についてよく説明を受け十分理解した上で、対象者が自らの自由意志に基づいて医療従事者と方針において合意すること |
| エジンバラ産後うつ病自己評価票 | 産後うつ病のスクリーニングを目的として開発された自己記入式質問紙のこと |
| オーバートリアージ | 緊急時の医療対応において、優先順位をつけるトリアージの際、適切な基準よりも高い判断を行うこと |
| 開放型病床 | 診療所から紹介された入院患者を、病院の医師と診療所の医師が一緒に診察を行うことのできる病床のこと |
| ガラスバッジ | 個人被爆モニタ用の線量計のこと |
| 冠動脈インターベンシ | 冠動脈狭窄性病変に対してカテーテルを用いて拡張を行う治療のこと |

| | |
|----------------|---|
| ヨン | |
| カンファレンス | 医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、薬剤師及び医療ソーシャルワーカーなどの専門職が、分野の枠組みなどを乗り越え、チームで一人の患者に対してベストな支援方法を話し合い、検討すること |
| 緩和ケア | 生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的、心理的、社会的な問題、さらにスピリチュアル（宗教的、哲学的なところや精神、靈魂、魂）な問題を早期に発見し、的確な評価と処置を行うことによって、苦痛を予防したり和らげたりすることで、QOL（人生の質、生活の質）を改善する行為のこと |
| 救急ワークステーション | 医療機関と消防機関が連携し、救急要請に対して救急隊員とともに、必要に応じ医師が同乗して現場に出場するなどの方法により、病院内での救急隊員の知識、技術の向上を目的とした教育の拠点のこと |
| 急性期医療 | 急性疾患または重症患者の治療を 24 時間体制で行う病院のこと |
| 救命救急センター | 救急指定病院のうち急性心筋梗塞、脳卒中、心肺停止、多発外傷、重傷頭部外傷など、複数診療科領域の命に係わる重症な患者に対し高度な医療技術を提供する救急医療機関のこと |
| 救命救急センター充実段階評価 | 平成 11 年度より、厚生労働省によって、施設ごとの充実段階評価が開始された。前年の一年間の実績を各施設からの報告のもと点数化し、充実段階 A・B・C として 3 段階に区分し、評価するもの（平成 30 年度からは、評価内容が変更され、S・A・B・C の 4 段階となる） |
| クラスター | 時間的及び地理的の両方の観点で、近接して発生する特定の疾患または障害が異常に高い発生率である集団のこと |
| クリニカルパス（院内） | 医師、看護師、その他医療スタッフが、共同して実践する治療、検査、看護、処置、指導などの標準的な治療行動計画の流れを示すもの |
| ゲノム | 遺伝情報の全体・総体のこと |
| 健康寿命 | 介護や人の助けを借りずに起床、衣類の着脱、食事、入浴など普段の生活の動作が 1 人ででき、健康的な日常を送ることができる期間のこと |
| 後発医薬品 | 新薬の独占的販売期間（有効性、安全性を検証する再審査期間及び特許期間）が終了した後に発売され、新薬と同じ有効成分で効能、効果、用法、用量が同一であり、新薬に比べて低価格な医薬品のこと。ジェネリックという。 |
| 後方支援病院 | 急性期治療を終えた患者が転院し、回復期治療などを提供する病院のこと |
| コードブルー | 患者の容態急変などの緊急事態が発生した場合に用いられる、救急コールのこと |
| 個別化医療 | 患者のタイプにあわせて最適な治療法を選択すること |

| | |
|--------------------|--|
| コンセンサス | 意見の一致や合意のこと |
| 災害拠点病院 | 大規模災害における医療確保を目的として、重症、重篤な傷病者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院のこと。厚生労働省の基準で、原則として二次医療圏ごとに1カ所指定される。救命医療を行うための高度診療機能、被災地からの重症傷病者の受け入れ機能、医療救護班の派遣機能などが求められる。 |
| 堺市医療圏がん診療ネットワーク協議会 | 大阪府がん対策推進条例の促進に向け、堺市二次医療圏における地域がん診療連携拠点病院（大阪労災病院、堺市立総合医療センター）及び大阪府がん診療拠点病院（近畿中央呼吸器センター、ベルランド総合病院、耳原総合病院）、相互の連携体制の整備促進を図るため設置したもの |
| 堺市こども急病診療センター | 堺市救急医療事業団が運営する夜間・休日の急な子どもの内科系疾患に対して外来診療を行う診療施設のこと |
| 三師会 | 医師会、歯科医師会、薬剤師会のこと |
| 三次救急医療機関 | 二次救急医療まででは対応できない重篤な疾患や多発外傷に対応する医療機関のこと |
| 集学的治療（がん） | がんに対し、より高い治療効果を得るため、外科療法（手術）、化学療法（抗がん剤）、放射線療法、免疫療法等から二つ以上の治療方法を組み合わせて行う治療のこと |
| 周産期医療 | 妊娠満22週から出生児満7日未満までを周産期といい、この時期は母子とも異常が発生しやすく、突発的な緊急事態に備えて、産科、小児科双方から一貫した総合的な医療体制が必要であることから、特に周産期医療と表現される。 |
| 術前タイムアウト | 手術の際、主治医（執刀医）、麻酔医、看護師がいつせいに手を止めて、患者氏名・左右を含む部位・左右を含む術式などを確認すること |
| 診療密度 | DPC対象病院が入院患者に提供する診療行為を出来高点数に換算することで、「1日にどれだけの密度の診療活動を行っているか」を測るもの |
| 精神科身体合併症患者 | 身体疾患を持ちながら興奮や疎通不良などの精神症状のため一般診療科では対応困難な患者のこと |
| 精神科リエゾンチーム | 一般病棟において、身体疾患患者の精神症状（不穏・不眠・せん妄・抑うつ・希死念慮など）の悪化およびそのリスクが高いと予測される場合や患者とその家族に対するメンタルサポートが必要な場合に、「こころのケア」をはじめとする精神科医療サービスを多職種で提供するチームのこと |
| セカンドオピニオン | 患者がより納得のいく治療を受けるため、診断結果や治療方針、方法等について、主治医以外の医師から意見を聞くこと |
| 積極的支援 | 対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取組を継続的に行うことができるようになることを目的として、医師、保健師 |

| | |
|-------------------|--|
| | 又は管理栄養士の面接による生活習慣の改善に係る行動計画の策定及び対象者が主体的に生活習慣の改善への取組に参加するよう適切な働きかけを相当な期間継続して行う保健指導のこと |
| セルフマネジメント | 自分自身を律するための能力のこと |
| 総合及び地域周産期母子医療センター | 周産期母子医療センターとは、総合周産期母子医療センターと地域周産期母子医療センターの2つの機能のことをいい、総合周産期母子医療センターとは、母体・胎児集中治療管理室（M-FICU）を含む産科病棟及び新生児集中治療管理室（NICU）を備えた医療機関。常時、母体・新生児搬送受入体制を有し、母体の救命救急への対応、ハイリスク妊娠に対する医療、高度な新生児医療等を担っており、地域周産期母子医療センターとは、産科・小児科（新生児）を備え、周産期に係る比較的高度な医療行為を常時担う医療機関のこと |
| 第一種、第二種感染症指定医療機関 | 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において定められた、一類感染症又は二類感染症の患者の入院を担当させる医療機関として都道府県知事が指定した病院のこと |
| タスクシフト | 医師が担う業務を他職種へ業務移管・共同化し、医師への業務集中を軽減しようという働きかけのこと |
| 地域医療支援病院 | 地域で必要な医療を確保し、地域の医療機関の連携等を図る観点から、かかりつけ医等を支援する医療機関のこと。紹介患者に対する診療機能や実績等により都道府県が承認する。 |
| 地域完結型医療 | 地域の中で、それぞれの病院や診療所、クリニック等が、その特長を活かしながら役割を分担し、地域の医療機関全体で1つの病院のような機能を持ち、切れ目の無い医療を提供していこうというもの |
| 地域がん診療連携拠点病院 | 専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などの役割を担う病院として、国が定める指定要件を踏まえて都道府県知事が推薦したものについて、厚生労働大臣が適当と認め、指定した病院のこと |
| 地域包括ケア | 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供されること |
| 治験 | 治療試験の略。新薬の効果を確かめたり、既存の薬剤の効果と副作用の追跡調査をしたりするため、患者や健康な人に服用してもらい試す臨床試験のうち、特に製薬会社で開発中の医薬品や医療機器を患者や健康な人に使用してもらい、データを収集して有効性、副作用や安全性を確認する試験をいい、治験は国の基準を満たした医療機関で行われる。 |
| チーム医療 | 医療技術の進歩と高度医療の普及、患者中心の医療に対するニーズの高ま |

| | |
|-------------|---|
| | りなどを背景に、医師、薬剤師、看護師などの各医療職の協力によるチームで行う医療のこと |
| 定位置放射治療 | 通常の外照射よりも高い精度で位置決めを行い、放射線を病変の形状に正確に一致させて3次元的に集中照射する放射線治療のこと |
| 低侵襲手術 | 手術・検査などに伴う痛み、発熱・出血などをできるだけ少なくする医療。例えば内視鏡やカテーテルなど、身体に対する侵襲度が低い医療機器を用いた診断・治療のこと。患者の負担が少なく、回復も早くなる。 |
| デジタルサイネージ | 表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクターなどによって映像や文字を表示する情報・広告媒体のこと |
| ドクターカー | 種々の薬剤や器具を装備し、医師及び看護師が同乗して患者を搬送できる救急車のこと。病院到着までに医師による適切な処置及び医療を行うことができ、救命率の向上が期待できる。 |
| 特定健診 | 日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの公的医療保険加入者を対象に、保健指導の対象となるかどうかを判断しメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）該当者及び予備軍を減少させることを目的として実施される健康診査のこと |
| トリアージ | 大事故・災害などで同時に多数の患者が発生した際に、手当ての緊急度に従って優先順をつけること |
| 二次救急医療 | 入院や手術を要する症例に対する医療であり、いくつかの病院が当番日を決めて救急医療を行う病院群輪番制や、共同利用型病院方式がある。 |
| ハートコール | 急性心筋梗塞、狭心症、急性心不全等の救急疾患に対応するため、救急車からの電話に担当医が直接対応するシステムのこと |
| 病院前医療 | 急病人などを病院に運び込む前に行う応急手当てのこと。主として、救急車内で行うものをいう。 |
| フレイル | 健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと |
| ブレインコール | 脳卒中の救急疾患に対応するため、救急車からの電話に担当医が直接対応するシステムのこと。また、急変時にいつでも対応できるように待機していること |
| ボトムアップ | 現場の声を積極的に拾い上げ、意思決定に反映する手法 |
| ポリファーマシー | 「Poly（多くの）」＋「Pharmacy（調剤）」の造語で、単に薬剤数が多いことではなく、薬剤が多いことにより、薬物有害事象につながる状態や飲み間違い、残薬の発生につながる問題のことで、不要な処方や過量重複投与など、あらゆる不適正処方も含む。 |
| メディカルコントロール | 傷病者を救急現場から医療機関へ搬送する間に救急救命士が実施する医行為に対して、医師の指示または指導・助言および検証することにより、そ |

| | |
|------------------|---|
| | これらの医行為の質を保証すること |
| ラウンド | 病棟や病室内の見回りのこと |
| リエゾン | 一般病棟におけるせん妄や抑うつといった精神科医療のニーズの高まりを踏まえ、一般病棟に入院する患者の精神状態を把握し、精神科専門医療が必要な患者を早期に発見し、可能な限り早期に精神科専門医療を提供すること |
| リスクマネジメント | リスク（危険の生じる可能性）を組織的に管理し、損失などの回避または低減をはかるプロセスのこと |
| 臨床倫理コンサルテーションチーム | 医療従事者が直面する臨床倫理上の問題に対し、迅速に検討し、助言や推奨を行う多職種で構成されたチームのこと |